



# 上智大学短期大学部

## SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

令和元年(2019年)12月10日

### 通信 第96号

編集・発行 上智大学短期大学部

## 第42回 ソフィア・ジュニア祭開催

2019年10月26日(土)に第42回ソフィア・ジュニア祭(SJ祭)が開催された。地域の方、卒業生など多くの方に来場いただき、盛況な大学祭となった。

SJ祭実行委員長の磯辺彩乃さん、SJ祭実行委員会顧問の森下園教授から寄稿いただいた。

### SJ祭を終えて

SJ祭実行委員長 磯辺 彩乃

台風が接近する中で、10月26日(土)のSJ祭に向けて心配しながら準備を進めていました。実際、前日は荒天でステージ設営やテント設置にも支障が出ており、SJ祭が実施できるのか正直不安でした。しかし、約8ヶ月をかけて広報、渉外、会計各担当の学生実行委員が準備を進めてきた努力が報われたのか、当日は晴天に恵まれ無事実施することができました。実行委員長として約80人の実行委員をまとめなくてはならずとても大変でしたが、サークルや学生有志によるステージ企画はとても盛り上がりました。模擬店も今までにない賑わいを見せていました。当日も各委員が運営を円滑に行っている姿を見て、私は少し肩の荷がおりた気がしました。そして無事にSJ祭を終えることができたのです。SJ祭実行委員長としてはじめは戸惑いもありましたが、仲間と協調して

活動するとはこういうことなんだと実感することができました。この経験は私の将来において大切なことに繋がると確信しています。勿論私だけではなく実行委員の学生たち、多くの教職員の皆さん、SJ祭を支えてくださった方々のお陰であるとあらためて感じ、また、来場くださった皆さんに感謝しています。



Sophians' Beautiful Harmony-SJ祭と和/輪への願い  
SJ祭実行委員会顧問 森下 園

今年のSJ祭は磯辺実行委員長の言葉通りいろいろありましたが、青空と美しい富士山をのぞむスタートとなりました。実行委員が選んだテーマは「Sophians' Beautiful Harmony 一人から人へ、心をつなぐみんなの輪」、新たにはじまる「令和」と来たるオリンピック/パラリンピックを意識して、秦野キャンパスから世

界に和と輪を発信したいという願いが込められています。本学学長山本浩先生の開会宣言に続き、上智学院の総務担当理事サリ・アガスティン先生が挨拶のなかでこのテーマをほめてくださいました。また、正午には高橋昌和秦野市長のスピーチをいただきました。教室でのハロウィン企画では学生たちがゲームなど工夫をこらして地域のお子さんを迎え、グローバルフレンズでは近隣の外国籍市民の方々とお子さんたちが集い、小田急電鉄の子ども用制服を着ての写真撮影、和サークルのお点前、ガリラヤ会バザーなど1号館は来場者でにぎわいました。午後には上智大学外国語学部英語学科教授の坂本光代先生のご講演「バイリンガリズムと多文化共生」を学生たちが熱心に聴講しました。他にも、ソフィア後援会運営のお休みどころ、ソフィア会(同窓会)のルビー祝・銀祝記念式典、学生たちのEnglish Festa代表チームのプレゼンテーション、Gouldゼミ、杉村ゼミ、神谷ゼミ生のゼミ発表など、盛りだくさんの企画でした。実行委員の学生たち、教職員、スタッフのみなさん、そして来場くださった後援会と同窓生のみなさま、近隣のみなさまに感謝申し上げます。また同時に、台風で被災した地域の方々(本学にも家族・親族が被災した学生がいます)のことを思い、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

## サービスラーニング関連科目の一部単位化について

本学の特色の一つであり、建学の精神 *Men and Women, for others with others* を体現するサービスラーニング活動。授業の100分化や、従来設けられていたサービスラーニング時間枠(原則他の授業科目のない時間帯)の廃止に伴う持続可能な活動体制作り、および学生の学びの質の向上を主な目的とし、2019年度より一部のサービスラーニング関連科目が単位化された。

サービスラーニング活動を始めるにあたり、事前教育として行われてきた全7回の「サービ



スラーニング入門講座』は今回単位化された科目の一つである。秦野市職員を外部講師としてお招きし、活動のフィールドとなる地域を知るための『はだの学』も新たに内容に加わった。学外での学びに直結した授業を行うことで、学生の事前教育の均一化と活動の質の向上、学びを深めることを意図している本講座は、今年度から春・秋学期に1回ずつ開講されている。今年度は春・秋学期あわせて、約190名の学生が受講し、より多くの学生がサービスラーニング活動へ参加する機会を得ることにつながった。

また、地域の外国につながる子どもたちやその保護者を対象とした、放課後の日本語・教科学習支援ボランティア(コミュニティフレンド)、市内小中学校での地域の外国につながる児童・生徒の日本語・教科学習支援ボランティア(カレッジフレンド)は、それぞれ『サービスラーニ



ング地域日本語支援A/B)、『サービスラーニング小中学校日本語支援A/B)として、一部単位化されたことにより、持続可能な体制で活動を行うことが可能となった。学生は、地域社会での奉仕活動をアカデミックな学内での学びと結びつけ、地域から得られた社会での体験を振り返り、社会性を核とした様々な能力を培っていく学習プロセスを通し、コミュニケーション能力や社会人基礎力を育て、ライフデザインができる人財として日々成長している。

# FACULTY VOICE

## サバティカル(研究休暇)を終えて

教授 宮崎 幸江

2019年5月から9月にかけて、北米、欧州で海外子女の日本語教育及び継承語教育の状況を視察した。継承語とは、母語が最初に覚えた言葉や最もできる言葉であるのに対して、ルーツのある言語ではあるが現地語の影響で、現在は最も強い言語とは言えない言語を表す。グローバル化の時代、在外邦人の数は約135万人におよび、その中には学齢期の子ども達も含まれる。

### ■ 海外の日本語教育及び継承語教育

両親とも日本語母語話者で、家庭で日本語が使用されていたとしても、日本人学校に在籍しない限り日本にいる場合のように言葉は発達しない。日本政府は60年代頃から在外邦人子弟が帰国時にスムーズに日本の教育に適應できるように、日本人学校、日本語補習授業校に教員を派遣してきた。

例えば、北米では通常、平日アメリカの現地校に通う子どもたちの日本語と教科学習を補うために、日本語補習授業校が大都市を中心に配置されている。しかし、日本語補習授業校カリキュラムは、日本に帰国する予定のない家族や国際結婚家庭の子どもの日本語教育のニーズには合わないため、各地で日本人保護者が様々な活動を行っている。

前回のサバティカルの際に、ニュージャージー州にあるプリンストン日本語学校の継承語コースを視察した。今回はニューヨークの継承語教育や、現地語が英語ではないドイツにおける継承語教育の最前線を視察した。



ブルックリン

### ■ 米国ニューヨーク州ブルックリン

北米には国際結婚家庭やアメリカ永住者予定の保護者が、子弟のために立ち上げた継承語の学校があるが、ブルックリン日本語学園もその一つで、2011年に設立された。児童の97%は長期滞在者、89%が日本人(日系人含む)と日本人以外の国際結婚家庭の子ども達だ。家庭言語や成育歴も多様な家庭が集まる。読み活動にも力を入れており、放課後はカフェテリアのテーブルに所狭しと日本語の絵本や本が並び、図書館になる。

今回は、この学校の前校長でカリキュラムを開発された中野友子先生が自ら案内してくださった。学会発表や論文で概要を知ってはいたが、百聞は一見にしかず。これまで見たことがないタイプ

の学校だった。まず、日本人保護者のエンパワメントの場があることや、配偶者も協力して日本語コミュニティの一員になっているのが印象的だった。放課後、外国人のお父さんたちが、カフェテリアに設けられた日本語図書で子どもと一緒に日本語の本を選ぶ様子から、子どもの持つ2つの言語と文化を尊重し協力して育てようとする様子が伝わってきた。

ブルックリン区には、新たなバイリンガル教育も始まっていた。日英双方向プログラム(Japanese Dual Language Program)が2015年に保護者によって立ち上がったと聞き、訪問させてもらった。こちらはP.S.147という公立小学校で、生徒は日本につながる子どもだけではない。日本語でやる科目と英語で教える科目を分けながら、2つの言語での学びを関連づけられるように工夫されていた。アメ



ブルックリン日本語学園  
(土曜日に公立学校の校舎を利用して実施)

リカでデュアルプログラムが一番多いのはスペイン語だ。日本ではまだ馴染みがない教育形態ではあるが、東海地方のように南米からの移住者が多い地域なら、ユニークな教育ができる可能性があると感じた。

### ■ ドイツ、ヘッセン州フランクフルト

ドイツでは、フランクフルトの継承語教育環境を視察した。フランクフルトは中央ドイツにあるドイツ第5の金融都市で、日本人駐在員も数多く住む。

フランクフルト日本人国際学校(JISF)は、幼稚園と小中学校からなるが、ここでも児童生徒の家庭言語環境や成育歴が多様化しているという。JISFは補習授業校から始まり、80年代に全日制が開設された。現在は、平日は全日制、土曜日は補習授業校が同じキャンパスを使用する。補習校に通う児童生徒は、平日はドイツ語で教育が行われる現地校か、インターナショナルスクールに通う。学年とともにドイツ語や英語等学校言語が強くなる中で、週1回の日本語を学ぶ機会を活かし学ぶ姿があった。

フランクフルトでは、日独国際結婚家庭の子どものプレイグループに参加させてもらう機会があった。乳幼児期から続くプレイグループで、小学生になった今も定期的に交流を続けているという。外国人の保護者が作る子育てグループに対して、公共の場を提供するフランクフルトの町の在り方に、移民の社会統合に取り組むドイツがみえた。

今年、日本でも「日本語教育推進法」が施行され、外国人の子どもの母語に配慮することが明記された。海外の事例から日本が学べることは何かを引き続き考えていきたい。



フランクフルトでのよみきかせ

## 2020年度学費決定について

2020年度の学費が決定しました。以下のとおり改定します。

### 2020年度上智大学短期大学部学生納付金

単位：円

費目	新入生	在学学生	摘要
入学金	260,000	-	入学時のみ
在籍料	60,000	60,000	年額
授業料	682,000	682,000	年額
教育充実費	200,000	180,000	年額
小計	1,202,000	922,000	
同窓会積立金	-	20,000	2年次徴収
英語力テスト受験料	9,390	3,130	1年次：年3回 2年次：年1回
学生教育研究災害傷害保険料	1,400	-	保険期間2年(※)
小計	10,790	23,130	
合計	1,212,790	945,130	

(※) 学生教育研究災害傷害保険料については、当初納入した金額に対する保険期間を過ぎて在学する場合、1年毎に徴収する。保険期間1年間800円。

## 2018年度グッドティーチング賞授与

教育実践に顕著な成果をあげた教員に贈られるグッドティーチング賞の2018年度受賞者が狩野晶子准教授ならびにネポムセノ・マリア非常勤講師に決まり、授賞式が2019年9月30日(月)に行われた。狩野准教授から以下のコメントをいただいた。

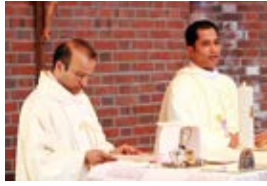
### グッドティーチング賞受賞にあたって 准教授 狩野 晶子

2018年度グッドティーチング賞にお選びいただき本学教職員の皆様、学生諸君とその保護者の皆様に心より感謝申し上げます。この賞をいただいたのは自分の教え方ではなく、学生自身が主体的、協働的な学びを行った成果だと感じております。秦野市と秦野市教育委員会、秦野市の各小学校や幼稚園の諸先生方の全面的なご協力を賜り、地域での英語教育サービラーニング活動とリンクした授業において、アクティブラーニングの取り組みを進めて参りました。地域での実践の場をいただくことで、学生が自分の学びを生かすべく積極的に授業に取り組みました。今回の受賞はひとえに地域で学生たちを温かく迎え入れて育てていただきましたおかげです。これからも、地域との協働を大切に学生たちの「生きる力」を伸ばす授業を進めて参りたいと思います。



## 2019年度 ルビー祝・銀祝 10月26日(土)

2年ぶりにSJ祭で賑わう秦野キャンパスにおいて、卒業40周年をお祝いする5期生のルビー祝、25周年をお祝いする20期生の銀祝の式典を開催しました。式典に先立ち、上智学院総務担当理事であるサリ神父様、短期大学部准教授のトマス神父様の司式により、聖ヨハンナ聖堂にて卒業生のための記念ミサが執り行われました。聖マリア寮閉寮のため、聖ヨハンナ聖堂でのミサは最後となりました。



式典では山本学長より祝状授与・祝辞、祝賀会では各期の代表、SJ祭実行委員長、ソフィア会奨学生2名からの挨拶もありました。卒業生の皆さんは和やかに再会を楽しんでいらっやいました。(詳細はHPでもご覧いただけます。)



ルビー祝 5期



銀祝 20期

## 5期生メッセージ

5期生代表 金子和世



本日、卒業25周年の皆様とともに、5期生の卒業40周年をルビー祝として迎えられましたことに心から感謝しております。

ご準備下さった役員の皆様、ありがとうございます。

私、実は今日、卒業後初めて短大に参りました。昨日の大雨から打って変わってお天気になり、周囲の山々に富士山まで見えて祝福してくれているようで、感激しながら懐かしく40年ぶりのキャンパスに入りました。

バリー学長をはじめ、多くの先生方が既にご帰天されてしまわれましたが、当時優しくそしてとても情熱的に授業をしてくださったことが思い出され、今日お目にかかれないのは残念ですが、さきほどのミサの中で感謝をこめて祈りを捧げさせていただきました。

ふりかえりますと、40年はあっという間でした。私たちは、昭和に生まれ育ち、若さあふれる20代を過ぎて、30代からの平成の30年間は皆それぞれにいろいろな変化に富んだ人生の一時期でありまして、今年令和元年にルビー祝を迎えたことは、偶然ではありますが、これからの人生のスタートの記念となりえたと思います。そして、40年前に大人として、社会に出ていく前に秦野キャンパスで自然に囲まれてのびやかに学べた2年間は、本当に貴重な時間でした。

ご指導いただきました先生方には、改めて感謝申し上げます。

卒業して40年、最初の30年間は上智短大通信が私にとって唯一の短大とのつながりでしたが、当時のスキー部のメンバーからクラブの同期で年に一回集まっていると数年前に声をかけていただき、新たに短大の仲間

とのつながりを持つことが出来ました。年に一度は、顔をあわせ、またSNSを通じて近況を話し合ったりしています。嬉しいことや、或いはつらいことであっても、お互いに分かち合い、助け合える同期の仲間がいるというのは、やはり特別だと感謝しています。また、今回、私がご挨拶することになりましたのは、会長の平野さんが、同じ教会の所属で頼まれた次第でして、長いこと教会で顔を合わせていたのに同窓生、それも同期だったとは全く知りませんでした。同じ教会にいる若いお母様が、この方も同窓生で役員をしてらっやいまして、気がついて、数年前に教えてください、同じ教会に同窓生が3人もいることがわかりました。

平野さんは永年、会長として同窓会を支えてくださっています。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願い致します。また、5期生で長く役員をつとめられていらっやる皆様にもお礼申し上げます。このような訳で近年では短大とのつながりを感じる事が出来て、有難く思っております。

この40年間、世界も日本も私達個人も、変化し進歩し、変わり行く時代に生きてまいりました。とりわけ、日本では近年未曾有の災害に見舞われてもきました。同窓生、短大関係者の皆様の中でも経験された方がいらしたことと思います。

また、お一人お一人、様々なことを乗り越えてこられたと思います。そして今日、無事にこのように40周年をお祝いできましたことを、心から感謝します。短大も同じように40年間歩み続け、数年後には創立50周年を迎えられます。

最後に、母校のさらなる発展と、同窓生また先生方のこれからのますますのご活躍と幸せを祈念して、簡単ではございますが、本日のお礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

同窓会(ソフィア会)寄付講座  
「キャリアプランニング」

本学ソフィア会(同窓会)のご協力を得て、2004年度より同窓生と在學生をつなぐ講座として上智大学短期大学部(当時の上智短期大学)の選択科目として開講されました。本学在學生が先輩である皆様方の多彩なご活躍・ご活動・ご体験にふれてより広い視野で将来の選択を考えられるようになってほしいという願いから、本学英語科長でいらした羽場勝子先生(上智短期大学名誉教授、聖マリア修道女会)が企画されたものです。毎年さまざまな分野で活躍されている同窓生の方々が母校の教壇に立たれ、人生の先輩として在學生に学びや課外活動の意義、ご卒業後の仕事、家庭、社会でのご活動などについてお話くださっています。同窓会のHPでも今後ご紹介していく予定です。

2020年度総会・  
ホームカミングのご案内

2020年5月31日(日) オール・ソフィアーズ・フェスティバル(ASF)開催の四谷キャンパスにて行う予定です。詳細は総会案内のはがきやHPにてご覧ください。

## 20期生メッセージ

20期生代表 上野朋子



学生時代、特に勉強熱心でもなく、クラブ活動に打ち込んだわけでもない私が、ルビー祝の先輩方も大勢いらっやる前で、20期生の代表というのは僥倖ではございますが、せっかくの機会をいただきましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、やはりこれまで私に関わって下さった皆さんへの感謝に尽きます。

先生方が作り上げられたアットホームな雰囲気の中で学生生活を送れたことが、今の自分の基礎になっていると感じます。現在、企業の管理職として働く立場で考えると、先生方のご努力によってあの良い雰囲気が作られていたのだと改めて気づかされます。

それから、何といたっても短大で出会った友人たちへの感謝です。彼女たちには、在学中はもちろん、卒業後の25年間何度も助けてもらいました。それぞれに忙しく、細く長い付き合いで直接会う機会は多くありませんが、仕事やプライベートで辛いとき、苦しいとき、楽しいとき、今も様々な場面で私を勇気づけてくれるのは彼女たちです。

最後に私たちの後輩、在學生の皆さんにも感謝したいと思います。十数年前から、キャリアプランニングの授業で年一回後輩たちに講義をさせていただいております。教壇に立って彼女たちの真剣な質問を受けると、少し前を走る先輩として、卒業してから何を考えて生きてきたのかしっかりと振り返り、これからも前進していこうと毎年気持ちを新たにします。

短大のよい伝統が、これからも長く続くこと、今日お集まりの皆様のご健康とご多幸をお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## ミクロネシア短期大学の学生との交流

11月6日(水)から11月21日(木)までの16日間の日程で、ミクロネシア短期大学より2名の学生を迎え、本学学生との交流を行った。本学および上智大学とミクロネシア短期大学との交流覚書に基づいて相互交流を開始し、本学での学生受け入れは4回目となる。

今年度は上智大学祖師谷国際交流会館に滞在し、本学では英語で実施される授業体験のほか、English Café Luncheon(教員と学生が昼食をとりながら英語で会話するイベント)、サービスマーケティング活動にも参加した。学外では、秦野市内の小学校に赴き本学学生と一緒に英語レッスンをするなど、学生はもとより地域住民とも交流した。また、上智大学においても環境セミナーやマイクロネシアデーへ参加している。2名の留学生、Senniesha SantosさんとPatricia Paulさんは、「とても素晴らしい環境だと思いました。日差しは暖かいのに風は冷たく、ミクロネシアにはないとても不思議な感覚です。ご飯も美味しく、辛い物が好きなのでキムチが特に美味しかった。」と語ってくれた。ミクロネシア短期大学生と本学学生が共に理解を深める良い機会となり、今後も継続した大学間交流を行ってきたい。



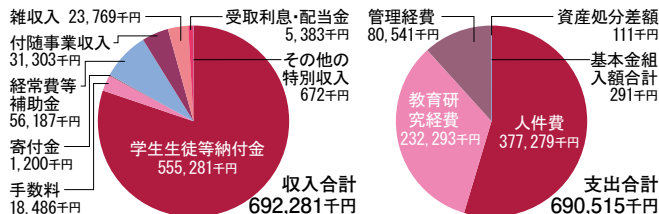
(単位:千円)

科 目		2018年度決算	2019年度予算	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	555,281	591,246	
	手数料	18,486	14,250	
	寄付金	1,200	2,000	
	経常費等補助金	56,187	88,595	
	(国庫補助金)	(56,107)	(88,514)	
	(地方公共団体補助金)	(80)	(81)	
	付随事業収入	31,303	14,603	
	雑収入	23,769	28,973	
	教育活動収入計	686,226	739,667	
	教育活動支出の部	人件費	377,279	387,446
		(退職給与引当金繰入額)	(17,946)	(35,076)
		教育研究経費	232,293	161,815
		(減価償却額)	(42,578)	(38,089)
		管理経費	80,541	75,575
(減価償却額)		(4,699)	(8,789)	
教育活動支出計	690,113	624,836		
教育活動収支差額	△ 3,887	114,831		
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	5,383	5,381	
	その他の教育活動外収入	0	0	
	教育活動外収入計	5,383	5,381	
	教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0
教育活動外支出計		0	0	
教育活動外収支差額	5,383	5,381		
経常収支差額	1,496	120,212		
特別収入の部	資産売却差額	0	0	
	その他の特別収入	672	46	
	(施設設備寄付金)	(600)	0	
	(現物寄付)	(72)	(46)	
	特別収入計	672	46	
	資産処分差額	111	3,604	
	その他の特別支出	0	0	
特別支出計	111	3,604		
特別収支差額	561	△ 3,558		
[予備費]		6,000		
基本金組入前当年度収支差額	2,057	110,654		
基本金組入額合計	△ 291	9,858		
当年度収支差額	1,766	120,512		

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

上智大学短期大学部 2018年度決算及び2019年度予算

### 2018年度事業活動収支決算



## 秦野たばこ祭に参加

恒例の秦野たばこ祭が今年も9月28日(土)および29日(日)の2日間にわたり開催された。本学と秦野市との提携による「まちづくりに関する活動」の一環として学生はこの祭にボランティアとして参加している。今回一日女性警察官として参加した2年生に感想を寄稿していただいた。

### 一日女性警察官を終えて

加藤 詩乃

私たちは一日女性警察官としてパレードに参加し、まちの交通安全・防犯を呼びかけました。警察官の制服に袖を通したときは、緊張と同時に責任の重さを強く感じました。

パレード中はたくさんの方にお声がけいただいたり、笑顔で手を振っていただいたことで元気をもらいました。また警察官の方には、警察の職務や勤務外の過ごし方について教えていただくなど優しく接していただきました。秦野たばこ祭に参加することで、秦野という街の温かさや、市民の方々の優しさに触れることができました。このような形で地域住民の方々と交流することができたことをとても嬉しく思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。来年以降もぜひ多くの方にたばこ祭に参加していただきたいです。



## 入試日程のご案内

上智大学短期大学部の教育は、キリスト教ヒューマニズムに基づいた教育の精神である「他者のために、他者とともに (Men and Women for Others, with Others)」を国際社会において実践することのできる英語発信力と国際性 (Global Competency) の涵養を目指しています。受験生の皆様には、本学での学びを進路の一つとしてご検討いただければ幸いです。短期大学部では入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することを目指しています。詳しくは入試要項をご確認ください。

今後実施する入試制度は下記のとおりです。

大学案内・入学願書のご請求は、本学HPトップページのテレメールをご利用ください。

上智大学短期大学部HP



種 別	募集人数	出願期間	試験日
一般入試 A 日程	55	1月6日(月)～1月17日(金) (消印有効)	2月1日(土)
		1月20日(月)～1月23日(木) (短大窓口受付)	
一般入試 B 日程	25	1月30日(木)～2月14日(金) (消印有効)	2月21日(金)
		2月17日(月)～2月19日(水) (窓口受付) <sup>(注1)</sup>	
一般入試 C 日程	15	2月21日(金)～2月28日(金) (消印有効)	3月5日(木)
		3月2日(月)・3月3日(火) (窓口受付) <sup>(注1)</sup>	
第3期 A O	5	1月6日(月)～3月10日(火) a～dの出願期間があります <sup>(注2)</sup>	出願期間により異なります <sup>(注2)</sup>
TEAP・英検等利用型 C 特別	5	1月6日(月)～3月10日(火) I～VIの出願期間があります <sup>(注2)</sup>	出願期間により異なります <sup>(注2)</sup>
国際バカロレア(IB)科目履修 C 特別	2	2月10日(月)～2月14日(金) (消印有効)	2月20日(木)

(注1) 一般入試B・C日程は、上智大学短期大学部(秦野キャンパス)と、上智大学入学センター(四谷キャンパス)の2ヶ所で窓口受付を行います。

(注2) 第3期AO入試(a～d)・TEAP・英検等利用型C特別入試(I～VI)の日程の詳細は本学ホームページでご確認ください。